

ご紹介いただきました奥田でございます。本日は、第8回の「ワシントン・レポート」を開催させていただきまして、朝10時から視聴いただきまして、また両先生にもコメンテーター、モデレーターとしてご参加をいただきまして、誠にありがとうございました。今回は500名を超える皆様からお申し込みをいただいたということで、大変ありがたく思っております。

本日は、藤巻研究員から『アメリカにおける「空飛ぶクルマ」の実現に向けた取り組み』というテーマで、「空飛ぶクルマ」が実現するメリット、それに向けた課題や対応、開発動向についてアメリカの最新状況をご報告させていただきまして、両先生からコメントもいただきました。また、特に鈴木先生には「空飛ぶクルマ」に関して大変わかりやすいお話をいただきまして、ありがとうございました。それから、ご視聴されている皆様方からも、たくさんのご質問をいただきましてありがとうございます。これまでも毎回、ご質問をいただきますが、今日は特に多くのご質問をいただいたような感じがいたします。全てにお答えできなくて大変申し訳なく思っておりますけれども、こういった両先生、それから報告者と皆様との有意義なやりとりが、リアルで、かつ活発にできる日が一日も早く来るように願っておるところでございます。

今回の発表におきましては、「空飛ぶクルマ」の早期実現に向けて、マスタープランの策定を通じた関係者の方向性のすりあわせ、着実な試験の積み上げ、社会的受容性を高める、といったようなことが重要という報告がありましたけれども、研究所におきましては、今後も「空飛ぶクルマ」の実現に向けた動向につきまして情報収集を継続してまいりたいと思っております。また、その際は、ご質問にもございましたけれども、そのような動きの前提となります、法規制を含むいわゆる航空機政策の動向というものについても、把握をしていくということが重要であると考えております。この点につきましては、一昨年12月に第4回の「ワシントン・レポート」で、当時の研究員から「米国における無人航空機政策の動向」と題してご報告をさせていただいたところですが、そういった視点もあわせて情報収集なりに努めてまいりたいと考えております。

今回は、アメリカの「空飛ぶクルマ」に関する動向をお伝えいたしましたけれども、こういった海外の交通・観光に関する諸情勢を皆様にお伝えするというのは、私共の研究所の非常に重要な使命であると考えております。また、コロナ禍で人の行き来が途絶えがちになる中で、そういった役割がますます増してきていると思っております。

私共は、この「ワシントン国際問題研究所」に加えまして、できるだけ早期にバンコクに「アセアン・インド地域事務所」というものを立ち上げたいということで準備を進めておりまして、今後アセアン・インド地域における情報収集、それから発信に

つきましても、取り組みを強化してまいりたいと思っているところでございます。

それから、ワシントンの皆さん、今回も夜にもかかわらずお疲れ様でした。大統領就任式が無事に終了して、就任式以前の緊張も徐々に和らいでいるのではないかと思いますけれども、夜も更けてきましたので、ぜひ気を付けて帰宅してもらいたいと思います。

「ワシントン・レポート」をこういったリモートで行わせていただくというのは今回2回目でありまして、スタッフも日米の間でリハーサルを繰り返したりしながらより円滑な提供に努めたつもりでありますけれども、ご視聴いただきました皆様方には、今回の内容、それから運営方法、さらには今後取り上げるテーマについていろんなご意見がおりかと思えます。このあとアンケートをさせていただきますので、大変お手間ですけれども、ご意見おありの方はぜひお寄せ下さい。皆様の貴重なご意見を今後の改善に役立てたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

最後に、重ねまして皆様のご参加に感謝を申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。